

第12期調布市生涯学習推進協議会（第9回）会議録概要

1 日時 平成29年5月15日（月） 午後2時30分～4時45分

2 場所 調布市教育会館 2階 202・203会議室

3 出欠

(1) 出席 生涯学習推進協議会委員（敬称略）

（会長）大森 秀子 小川 芳昭 後藤 淳子 芹澤 充子 高木 直
濱松 章洋 宮寄 武 森山 朱美 （副会長）矢幡 秀治

(2) 欠席 生涯学習推進協議会委員（敬称略）

佐野 洋

(3) 事務局

半澤生涯学習交流推進課長 神田生涯学習交流推進課長補佐

※宇津木生活文化スポーツ部長及び城戸生活文化スポーツ部次長は、あいさつ後退席。

(4) 傍聴者

2人

4 議題

事務局より、生涯学習推進協議会条例第7条の定足数を満たしており会議が成立していることを報告。傍聴者2人であることを報告（入室）。本協議会の会議録作成のため録音することを確認。配付資料の確認（次第、報告書「調布市生涯学習振興プラン」に基づく各種取組の新たな展開のために～プラン策定から3年間の振り返り～（報告）（確定稿へ）、コーディネーター関連資料）

(1) 検討協議事項

「調布市生涯学習振興プラン」に基づく各種取組の新たな展開のために～プラン策定から3年間の振り返り～（報告）（確定稿へ）について

○大森会長 それでは、これより第9回調布市生涯学習推進協議会を開会します。

さて、これまで平成25年3月に策定された「生涯学習振興プラン」及び平成26年9月に発行された『生涯学習振興プラン』推進のための方策について（提言）について、各種取組の報告を事務局から受け、検討・協議を行ってまいりました。前回の会議・第8回を4月17日に開催した後、事務局から各課に調査をしていただきました。主な取組の実施状況について平成25年・26年・27年の3年間の実績とそれに対する各課の自己評価を4段階で表してもらい、その結果を反映した内容で今回の報告書がまとめられています。本日の協議会では、前回からの修正点を中心に事務局から説明を受け、各課の実績と自己評価について意見交換を行いたいと思います。今までに本協議会で「振り返りと提案」ということで、「うまく進展している点」「改良すべき点」「今後の展開のための提案」について検討協議し、意見をまとめてきましたが、それらに関しましても、各課の実績と自己評価の内容によっては、修正や微調整が必要な意見もあるかと思っています。本日が第12期の最終回の会

議となりますので、忌憚のない意見交換をどうぞよろしくお願いいたします。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。議題1 検討協議事項「調布市生涯学習振興プラン」に基づく各種取組の新たな展開のために～プラン策定から3年間の振り返り～（報告）（確定稿へ）について、事務局から変更点・修正点の説明をお願いします。

○事務局（神田課長補佐） まず、構成からですが、「はじめに」を設けました。1ページのところです。2ページ、Iは「生涯学習振興プランについて」に変更させていただきます。3ページ（1）が1になりまして「計画の基本理念と基本目標の相関図」となります。4ページ（2）が2となり「施策の体系図」となります。以上が、構成の変更箇所です。

次に5ページ以降ですが、大きな修正点等を説明します。平成25・26・27年度の実施状況が記入されております。また、自己評価についても「できている」「どちらかといえばできている」「どちらかといえばできていない」「できていない」の4つの中で判断していただきポイントが入っています。まず、基本目標1ですが、6・7ページについては、「できている」ということです。8ページ、子ども発達センターの「子どもの発達に関する相談・普及啓発活動の推進」については、「どちらかといえばできている」にチェックが入っています。9ページ、指導室の「中学生の職場体験学習の推進」に「どちらかといえばできている」にチェックが入っています。11ページ・12ページは、朱書き訂正した部分は、（1）④に「それぞれの特性を生かした」を加筆、（2）②については、議論があった点を加筆しこちらにも残しておきながら、「おわりに」のところにも本内容を加筆しました。③については、主旨は変えておりませんが文字を並び替え・入れ替えしました。④については、一部加筆しました。

次に基本目標2です。14・15ページでは、自己評価は「できている」ということです。前回会議で体育協会に委託している事業についてご指摘をいただきましたので、所管課に確認し、名称の変更や事業の内容を確認しております。平成26年度から事業委託されていることなどを表記しました。16ページの公民館の「多様な公民館事業の推進」については、「どちらかといえばできている」にチェックが入っています。その下の図書館の「図書館資料の提供」についても、「どちらかといえばできている」にチェックが入っています。17ページ、文化振興課の「消費者講座の実施」については、「どちらかといえばできている」にチェックが入っています。18ページ、高齢者支援室の「地域における福祉活動の推進」で、ゆうあい福祉公社の事業を所管課に記入してもらいました。有償在宅福祉サービス事業と生活支援コーディネート事業「ちょこっとさん」です。環境政策課の「環境情報の提供と環境学習事業の推進」については、「どちらかといえばできている」にチェックが入っています。その下、学務課の「学校における食育の推進」ですが、前回会議で濱松委員から意見をいただいておりますが、所管課からこの3つの事業の表記がされています。十分な内容か検討ください。19ページ、郷土博物館の「国登録文化財真木家住宅の保存と活用」については、空欄だった実施状況の記入があり、評価は「どちらかといえばできている」にチェックが入っています。提言の部分、当課が所管課の「単位制度や認定制度の検討」については、イメージはもっておりますがどういう風にやっていくのかなど具体的な話し合いの場をもっておりませんので、「できていない」にチェックを入れて

います。その下の「活動場所の環境整備」につきましては、追加がありました。高齢者支援室から健康づくり事業について、民間協力による施設利用が進んでいるということで、「できている」の評価になっています。20ページ、(1)の(ア)(イ)で加筆修正があります。

次に基本目標3です。22・23ページでは、自己評価は「できている」ということです。23ページ下から24ページにかけての社会教育課の「社会教育学習グループのサポート」については、「どちらかといえばできている」にチェックが入っています。24ページ、せんがわ劇場の「せんがわ劇場の施設整備」については、「どちらかといえばできている」にチェックが入っています。25ページ、社会教育課の「学校施設の開放による市民のスポーツ活動支援」については、「どちらかといえばできている」にチェックが入っています。25ページ下から26ページにかけての公民館の「公民館の管理・運営及び施設整備」については、「どちらかといえばできている」にチェックが入っています。27ページ、(2)①は、前回会議の中でご指摘がありましたところでした。書きぶりを変えました。

次に基本目標4です。29ページでは、せんがわ劇場の「せんがわ劇場市民サポーター事業の推進」については、「どちらかといえばできている」にチェックが入っています。30ページ下から31ページにかけての高齢者支援室の「高齢者ふれあい給食の実施」については、「できている」ということですが、新たに平成27年度から立ち上げた事業で「生活支援体制整備事業」が開始していて、生活支援コーディネーターが調整役として活動しているということです。プラン策定当初にはない事業ですので、こちらに※印で掲載してよろしいか検討ください。31ページ下、公民館の「地域文化祭の実施」については、「どちらかといえばできている」にチェックが入っています。32ページ、当課の「コーディネート情報の共有」については、「どちらかといえばできていない」にチェックを入れました。これは、11期の提言からも、コーディネーター連絡会の見直し、構成メンバーの選定のし直しなどご意見をいただいておりますが、連絡会そのものを見直す前に、コーディネート機能をもつ方々の基礎知識のための研修としての講演会や情報交換会を兼ねたワークショップ等を実施しておりますので、所管課として厳し目の評価としました。その下、「相互友好協力協定締結大学との連携事業の実施」については、「どちらかといえばできている」にチェックを入れました。昨年度も222事業を全庁的に実施しましたし、件数は年々伸びているのですが、もっとできることがあるのではないかとということで、この評価としました。33ページ、指導室の「学校ボランティアの派遣」については、「どちらかといえばできている」にチェックが入っています。34ページは、前回とあまり変わっておりません。自己評価も「できている」となっています。35・36ページになります。(1)(ア)②に具体的な内容として、「お手玉や折り紙などの昔遊びの継承実施」を加筆しました。(イ)②「認知されるよう周知の工夫を期待します」を加筆しました。③も加筆しています。(2)①については、前回会議の中で現場の声としていただいた内容を入れ、事務局側で修正しました。④⑤については、前回1つだった大学連携の内容を2つに分けました。④は、宮崎委員からの国立市が学園都市としてイメージづくりをし、まちづくりをしている、大学からの政策提言を実現している事例があるなどの意見を踏まえて、追加しました。⑤は、芹澤委員からのご意見を落とし込んだものです。適切な表現になってるかも含めて、後に協議いただければと思います。

次に基本目標5です。38ページは、「できている」にチェックが入っています。39ページ、当課

の「生涯学習に関する相談、情報提供の実施」については、「どちらかといえはできている」にチェックが入っています。専門員が2名おりますが、まだまだ出張相談など様々な展開できる内容があるという期待を込めまして、この評価としました。40ページの提言項目については、「各種コーディネーターのネットワーク化の推進」ですが、「どちらかといえはできていない」にチェックを入れました。次に41・42ページ、前回会議でも大きな議論にはなっておりませんでしたので、(2)②に加筆がある程度です。

43ページ、「おわりに」です。冒頭申しあげました「はじめに」に対応して「おわりに」となっています。「はじめに」に数字がついておりませんでしたので、「おわりに」の前についている数字の「6」は削除ください。下の方、赤字部分については、前回会議で高木委員から「場所」についての提案がありました。集約した言葉で表現しました。

45ページ、資料編1(5)コーディネーター一覧につきましては、本日配布した資料をもとに足すものがあれば議論していただき、一覧を作成したいと思います。

説明が漏れてしまった箇所がありましたので戻りまして、10ページ、「たづくりエントランスホールなどの有効活用」のサイエンス・カフェの取組ですが、連携大学に調査はしたものの具体的には進んでいない状況もあり、「できていない」と評価しました。今現在、宮寄委員から、社会連携センター長もなさっているということもあり、電気通信大学とのサイエンス・カフェの実施に向けて提案がありましたので、具体的に進めていけそうです。実施自体はまだできていませんが、「できていない」から「どちらかといえはできていない」に修正させていただきたいと思います。現状を加筆して、評価を変えたいと思います。長くなりました。事務局からは以上です。

○大森会長 報告書の確定稿案について、題目は前回会議でご了承いただいておりますが、目次・構成についての確認をして、基本目標ごとに各課の自己評価を受けて事務局より補足説明をしていただきながら検討協議していきたいと思います。目次・構成について、事務局説明がありましたとおり、1ページに「はじめに」をつける、2ページのタイトルを「生涯学習振興プランについて」とする、3ページ・4ページは上位概念としてそれぞれ1、2とするということによろしいでしょうか。（「はい。」の声あり。）

次に基本目標1について、ご意見を伺います。10ページの生涯学習交流推進課の「サイエンス・カフェ」についてですが、見通しが立ってきたということで、「どちらかといえはできていない」より「どちらかといえはできている」でもよろしいと思いますが……。

○宮寄委員 今週に社会連携センターで会議がありまして、そこで認められましたら、10月ぐらいからできるようになると思います。

○事務局（神田課長補佐） 後ほどスケジュールの説明をしますが、この冊子の発行自体は6月末ですので、まだ、サイエンス・カフェの実施には至らないですので、具体的な実施の打ち合わせがきたらということです。

○大森会長 サイエンス・カフェの実現を願っております。

○事務局（神田課長補佐） 「どちらかといえばできている」という評価は、各課に聞いてみますと、理想とする形や目指しているものがあって、それに対して「もう少し」という部分があり、「できている」から一段下の「どちらかといえばできている」にチェックを入れたということです。

○芹澤委員 質問なのですが、色々な課が関わって取組を実施しているが、同じような感覚で自己評価をしているのかということ、二つ目は「できている」という評価が多いけれど、今年の「できている」と来年の「できている」は、進歩のある意味合いの「できている」ということなのか、以上2点について聞きたいです。

○事務局（神田課長補佐） まず一つ目の質問ですが、所管課は、課の事業として「できている」と評価していると思います。私どもはプランの主な事業として3年間の実施状況を振り返ってもらい、生涯学習の取組として「できている」「できていない」の評価をお願いしたわけですが、一方、所管課にとりましては生涯学習の取組というよりはむしろ所管課のミッションにより事業として「できている」「できていない」を評価してきていると認識しています。一律に生涯学習という視点で、同じ立ち位置から物事を見ているのかというと、違うと感じました。ただ、「どちらかといえばできている」と評価してきたところは、高い理想があって、それに対して課として「もっとこうしたい」ということですね。それは、広い視点からは、生涯学習の取組と言えますし、生涯学習の取組をもっと頑張りたいということだと言えますが、所管課としては、自分のところの取組をしていきたいということなのだと思います。

二つ目の質問ですが、キープしながら進歩があるように「できている」のかという部分なのですが、所管課としては、やっていこうと思っているということだと思えます。維持というよりは、前へ進めるということだと受け止めています。

○濱松委員 18ページのところですが、基本施策の2-2は「暮らしや地域の再発見につながる学びの推進」ということですので、「学校における食育の推進」について、農業まつりにおいて地場野菜を使った給食展を行い、保護者や市民の方、多くの方が学ぶ絶好の機会になったわけです。平成28年度の取組ですが、ぜひ、入れていただきたいと思えます。また、食育講演会の参加者が平成27年度は「0人」となっていますが、「未実施」の間違ひではないでしょうか。確認をお願いします。

○事務局（神田課長補佐） 給食展につきましては、掲載の方向で調整します。食育講演会の件は、確認してみます。

○大森会長 基本目標2に入っておりますが、1及び2で、他に意見はありますでしょうか。

○宮寄委員　　今の上の段で環境政策課の「環境情報の提供と環境学習事業の推進」が、「どちらかといえどできていない」という評価ですが、かなり理想が高いのでしょうか。昔、環境省に勤めておりまして、環境問題は危機的状況にあると認識しています。環境学習支援はもっとやっていただきたいと思えます。

○事務局（神田課長補佐）　　「拡充」事業に選定されていますし、表現が足りない部分があれば、※印で補足してもらいます。何を、どういう展開を望んでいて、出来ていないのかということを入力してもらいます。

○大森会長　　19ページの「単位制度や認定制度の検討」ですが、「できていない」としています。他課に比べて全体的に厳しい評価になっていますが、どうでしょうか。イメージはあるようですが…。

○事務局（神田課長補佐）　　会議の中で、小川委員から、認定証まではいかなくても簡便なもので取り組みやすいものから始めてみたらどうか、というご意見もいただいております。スタンプ方式などイメージはあるのですが、具体的な取り決めまでは至っていないのが現状です。近々、足掛かりをつけられるようにしますので、「どちらかといえどできていない」とすることも……。

○事務局（半澤課長）　　担当課のため、厳しく評価をしておりますが、会長からのご提案もあり、委員の皆様からお認めいただけるのであれば、「できていない」から「どちらかといえどできていない」に変えさせていただければと思えます。

○濱松委員　　推進のために目標を明確にし、期日を決めて実施することも、こうした評価の大事なところですから、これを機に実施なさるのは良いことだと思います。

○芹澤委員　　「できている」と甘い評価をしている課もあると思えますので、生涯学習交流推進課が自分のところを厳しく評価するのは良いことですし、逆に課の姿勢を評価します。11期からの提言は、まだ時間的にもそんなに経っていないので、取り組めていないことがあっても仕方ないのかなと思えます。

○大森会長　　ただし書きで進捗状況を記入し、「どちらかといえどできていない」の評価に変更をお願いします。20ページの「振り返りと提案」については、よろしいですか。前回から大きな修正もないようですし、先に進めます。

基本目標3「団体の学習活動」と継続について、ご意見などはありますでしょうか。自己評価などで気になる箇所はありますか。（委員からは意見出ず。）では、ご了承いただいたということで、次に

基本目標4「学習成果の活用」ですが、いかがでしょうか。32ページ「コーディネーター情報の共有」で、自己評価が「どちらかといえばできていない」にチェックが入っています。厳しい自己評価だと思いますが、いかがでしょうか。

○事務局（神田課長補佐） 当課としては、平成27年度からコーディネーターを主な対象に第一部で研修会、第二部で情報交換会とワークショップを行っています。29年度も実施予定です。年度に1回しか実施できていないというところがあります。できましたら、各コーディネーターのところに出向いて行って、実情把握のために現場を見させていただいたり、コーディネーター事例等も拝見したいと考えています。

○大森会長 他課より、一段高い位置から評価を行っているような印象を受けます。本協議会では、深さを知っておりますので……。

○高木委員 この事業の到達目標点は何なのか、ということだと思います。「できている」「どちらかといえばできている」という評価で出してきた他課の部分は、その課の判断もあり中々コメントしにくいところですが、生涯学習の主管課ですので、目標に対してできていないと感じる部分があるのであれば、これでもいいのかなと感じます。

○森山委員 コーディネーターの役割はとても重要な部分ですので、「どちらかといえばできていない」ということに対しては、我々委員の期待も込め、より充実していただきたいということで、このままでいいのではないかと思います。コーディネーターそれぞれが本来の働きを十分にさせていただくことが、市民にとってよりよい学習活動につながり、変わっていくのだと考えます。

○大森会長 協議会としては、平成21年にコーディネーターの活用に関する提言を示し、そういう意味では、期待度も高かったと思います。しかし、それに対して実績がどうかといえば、期待されたところまではいっていないのではないかと、という評価もあり得るのかなと思います。

○森山委員 生涯学習の主管課の自己評価が厳しいというのは、市長をはじめ皆さん、理解できると思いますが……。

○事務局（神田課長補佐） コーディネーターが、実際その所管のミッションで、どういう役割で、どういう事例のものを、どういう風に結び付けていっているのかについて、深く入り込んで知ろうということまで至らず、わかっていないところはあると思います。市民活動支援センターと生涯学習情報コーナーは、同じシステムを使って相談に対応しているため、関わりはある程度はできていると思います。しかし、例えば、教育支援コーディネーター室との関わりができていないのかというところも薄いですし、今後はしていきたいと思いますが、出来ていない実態があると思います。年に1回の研

修会と情報共有では、必要十分とは言えないと認識しています。

○大森会長 目的の再構築から方法論の検討ということも含めて、「どちらかといえばできていない」ということで、ご了承いただけますでしょうか。コーディネーター同士がどのように情報を共有化していくのかといった方法論についても検討していただければと思います。他に自己評価について、ご意見はありますか。

○後藤委員 混乱しているので確認をします。第11期の提言の中では、コーディネーターの件については別立てのような形になっていますので、プランでいうところの基本目標の4なのか5なのかということが、わからなくなっています。今、話に出ていた32ページの「コーディネート情報の共有」については、基本目標の4の取組として掲載されていますが、40ページの提言項目にもコーディネーターのことが掲載されていて、こちらは基本目標5としての中に載っています。書き分ける理由などがあったのでしょうか……。振興プランでは、コーディネーターの件は基本目標4なのですが……。以前の会議でコーディネーター連絡会の構成員についての意見も出ていたかと思いますが、どのように考えを整理したら良いでしょうか。

○事務局（神田課長補佐） 第11期の提言は、大きな章立てでは、2つになっています。一つ目は、「生涯学習のきっかけづくり・継続・成果の活用」です。二つ目が、「学びと暮らしとまちづくりをコーディネートする仕組み」で、こちらにコーディネーターのことが述べられています。基本目標ごとに構成されている提言でしたら明言化できると思いますが、そういう形ではありません。当初、ワークを皆さんにさせていただく中で、提言の中身を見ていくと基本目標ごとに振り分けられるね、ということで合意形成しながら整理していったかと思いますが、その流れの中で40ページの部分は基本目標5に振り分けられました。会長の方では、どのような見解ですか。

○大森会長 基本目標5は、「情報提供・相談機能の充実」ということですから、中心になるのは「生涯学習まちづくり推進員」だという位置づけで検討してきたわけです。「生涯学習まちづくり推進員」は、情報提供・相談機能だけなのかというところではなく、コーディネート機能も持っているということを問題にしているのです。コーディネーター連絡会では、むしろ中心になる人物ではないかということが、11期の提言では指摘されてきました。

○事務局（神田課長補佐） そうでしたね。そういうことにもかかわらず、「生涯学習まちづくり推進員」がコーディネーター連絡会のメンバーにも入っていないものですから、そもそも構成員も見直した方が良いとの見解でしたね。

○芹澤委員 振興プランでは、基本目標の4にコーディネーターのことが入っているのに、5にはありませんよね。提言では、コーディネーターのことが重要なので特記されてきましたよね。基本目

標の4で深めた方が良いのではないかと思います。協議会の中ではあまり議論をしてきていないですが、基本目標の5が、かなり浅くなってしまいますね。

○大森会長　　コーディネーター機能そのものは、基本目標1からすべてに横断的に関わるものですよ
ね……。

○小川委員　　コーディネーター機能は、基本目標にかかわらず絡んできていますが、基本目標4では
自分が学んだことを社会参加・まちづくりなどに結びつける役割としてのコーディネーターであり、
基本目標5は情報提供が中心なのだと思います。

○事務局（神田課長補佐）　　基本目標の5は、基本目標1から4の下支えになる内容で、その中心
となる担い手が、相談員であったりコーディネーターであったりします。例えば、基本目標の5に残
すのであれば、どうしてあえてここでコーディネーターのことを入れているのかを説明したらいかが
でしょうか。

○高木委員　　コーディネーターの役割としては、最終的には、学んだ成果をまちづくりに生かすと
いうことだと思います。例えば、地域福祉コーディネーターでしたら、地域の困りごとを地域の方々
の力で解決する方向に導くことだと思います。基本的には、基本目標4のところに書いてあるべきだ
と思いますが、基本目標5には「再掲」ということで掲載したらいかがでしょうか。「振り返りと提
案」についても41ページの基本目標5のところの「今後の展開のための提案」のコーディネーター
の部分を、35ページの基本目標4のところの「今後の展開のための提案」にコーディネーターのこ
とが言及されていないので、移動させたらいいと思います。そうすると、振興プランと提言の整合性
が取れるのではないのでしょうか。

○大森会長　　基本目標4のところにコーディネーターのネットワーク化、生涯学習まちづくり推進
員の研修機会の確保ということを入れていくということによろしいですね。ただし、一つお話しして
おきたいのは、振興プラン策定時にコーディネーター連絡会のことがどれくらい認識されていたのか
ということです。11期では、提言の中で、すべてのコーディネーターの情報を集約（掌握）するコ
ーディネーターが必要であるということ提案しました。それは、基本目標5の部分に該当してくる
内容だと思います。振興プランは平成25年3月に策定され、このまま10年間の計画期間でずっと
同じでいいのかということもあります。矛盾も生じることもあると思いますし、取組も変わってき
ている部分もあると思うので、変更していくことは可能なのでしょうか。

○事務局（神田課長補佐）　　生涯学習振興プランは市の個別計画になりますが、他課の計画も同じ
で、社会情勢等に合わせて中間年度に目標数値の見直しや内容の見直しを行います。改定ですね。今
回、実施状況を調査した中でも事業名の変更ですとか、直営が委託になっていたり、新しい事業展開

があったりなど変化が生じています。各課から情報提供を得て、それを把握できたのは、調査をして良かったことだと思います。現在は、振興プラン自体の中間年度の見直しなどは予定されていませんが、柔軟な対応は必要だと感じています。

提言の20ページに「コーディネーター・ネットワークに期待される役割」とあり、「コーディネーター活動を相互に結び付け、総合的に実行し、学習のきっかけづくりから、その継続及び成果の活用に至る生涯学習の全過程を支援する」と記述があります。そのことから基本目標5にも関わる役割だと思います。会長と事務局で調整して、基本目標4に移すけれど、基本目標5での記載もするという事で、皆さんには確認していただくということで、よろしいでしょうか。

○芹澤委員 会長がおっしゃる通り、コーディネーターのコーディネーション、ということですね。私もそれが大事だと思います。

○小川委員 コーディネーターたちがそれぞれのミッションを行いながらも、全体的に生涯学習を進めていくためにはコーディネーターを統括するコーディネーターが必要で、それを生涯学習交流推進課の専門員に担っていただきたいということですよね。

35ページの(2)①「生涯学習に取り組む人は多いように感じています。」というのは個人的な見解のようなので、表現としてどうでしょうか。市民意識調査の設問が悪いから、という書きぶりはふさわしくないのではないと思います。「生涯学習に取り組む人が多い」ことは、イコール、「学習の成果を自分以外のために生かしている」とは言いにくいのでは。

○芹澤委員 色々な講座に行って体験して、「こんなこと新しく学んだよ。」ということ、それを社会に生かしているのかといえばそうではないということですよね。学ぶ人は増えていても、目に見えるような貢献ではないので、本人の認識も薄く、今後も数字が大幅に増えていくようには思えません。

○事務局(神田課長補佐) 事務局としては、会議の中で皆さんからの現場の実態の声を聞いて、生涯学習活動をしている方は多く、また、潜在的にも学習を自分以外のために生かしている方も多いのだと認識しました。しかし、小川委員の発言を聞いて、確かにイコールではないという思いと、文章として表現をどのようにしたらいいのかと思いました。

○高木委員 学ぶという分母は増えているのだけど、地域貢献をしていると思っている人・分子は増えていないということです。自分の健康のためにやっていることが地域貢献になっているとは思えない、そういうことですよね。評価をされるということは大事なことなので、先に話題に出た認定証などをもらえると意識が違うのかもしれない。ウォーキングをして、健康になって、結果として医療費が抑制され、それがまちの役に立っている、そういうことですよね。中々一般にはイメージできないかなと思います。

表現としては、「アンケートをとる際に」と「設問への見直し」という部分は削除したらいいと思います。数値を上げる手法のような受け止め方をされてしまいますので。

○後藤委員 実際の数値と乖離している部分を注意深く見ていくということを提案してもいいと思います。

○芹澤委員 いくらゴールがあってもやり続けていても、この指標は対策を講じたから達成ができるというものではないので、難しいですね。基本目標4が一番頑張ってもらいたいところです。

○事務局（神田課長補佐） 生涯学習というのは自らの学びですので、働きかけをしても、しない方はしないし、する方は幾つでもされるし、ということですね。意識啓発をしても数値には結び付きにくいという部分はありますね。しかし、推し進める気持ちは持って取り組んでいきたいと思います。

○小川委員 今後の展開のために、コーディネーターの役割を入れる時に、講座などの受講後に次に活躍できる場や団体を紹介するという事は書いてほしいです。

34ページの提言項目にある「地域デビュー」の「デビュー」って何ですか。

○高木委員 企業戦士だった方が、退職後に調布の地域で活動等を始める、地域に出て行くことを「デビュー」と言っています。講座に参加した方が、今度は、講座を企画運営する方になるということですね。

○小川委員 その下の「指導者」って何ですか。地域デビューと関係がある話ですか。10分野とは何ですか。

○事務局（神田課長補佐） 地域デビューとは関係ない話です。分野というのは、文学とか音楽とかスポーツなどのことです。例えば、ピアノが出来る方が自分の技能を生かして、「音楽」という分野で人材バンクの情報を登録すると、冊子やデータで公開し、そうした講師を探している方に情報提供ができます。また、情報更新の際に最新情報をご本人から入手し、よりよい紹介につなげています。

○小川委員 わかりました。そうだとしたら、地域デビューの間に指導者のことが入っているので、文章を並べ替えることと、指導者のところは説明を入れてください。それから、こちらの自己評価が「できている」となっていますが、今まで厳しい評価だったのに、「できている」と言ってよろしいのですか。これが中々できないから、基本目標の達成が難しいのかな、と思います。

○高木委員 地域デビューの歓迎会は、確かに退職者全員が来ているわけではないけれど、毎年、

積み重ねながら続けている、しかも、市民の委員がやっているということが大事ですね。

○芹澤委員　その受け皿が、私が入っている「わいわいサロン」なんです。最近加入者が増えているのです。会社を辞めて、どこに文化会館たづくりがあるのか分からない人が地域デビューで入ってきて、仲間づくりでその後、「わいわいサロン」に入ってくるのです。昔は、女の人が多かったのですが、今は男の方が多いです。

○小川委員　戻って申し訳ないですが、基本目標3です。21ページのグラフを見て、27ページ(2)①の文章を見て、老人クラブの会員が生涯学習とどう関係あるのかな。会員数現象がどう結び付くのでしょうか。

○高木委員　老人クラブも生涯学習活動の一つですよ。人口減少だし、老人クラブの会員数も減っている、でも老人は増えている。老人クラブに入らないで他の活動をしている方もいますよね。今ある団体の支援も大事ですが、新規設立の支援にもっと力を注いだ方が良いというのが、前回の議論で私が発言しました。

○小川委員　①と②を一つにして、①「生涯学習振興のための指標の数値は、現状は目標を達成しているが、」そのあと削除し、②「団体内での組織代謝について……」としたらどうか。

○事務局（神田課長補佐）　専門員に聞きますと、実際、毎年多くのサークルが廃止されているということです。指導者が高齢で病気になったり、亡くなったり、会員が減って維持できないなどの理由です。ですが、同時に新しいサークルも出来てきているので、それなりの数を維持しているということだそうです。

○大森会長　質的には②のことが重要であって、団体が増えたからといって生涯学習が振興したとは、必ずしも判断できないですが……。

○小川委員　例えば、今やっているサークル紹介・サークル体験を「もっとしなさい。」と言うことです。裏付ける数字は、今はないと思いますよ。

○大森会長　では、①も②もそのまま残しましょう。では、36ページ(2)⑤のところですが、これは社会教育課がどのように若いリーダーを育成しているのかということを受けて、青少年から成人層へ発展していけるような計画立案を、社会教育課と協力し合ってやっていくことが望ましい、とすると良いと思います。

基本目標5の部分はいかがですか。39ページの「生涯学習に関する相談、情報提供の実施」が「どちらかといえばできている」となっていますが、「できている」とすることはできないのでしょうか

か。

○事務局（神田課長補佐） 相談や情報提供自体は「できている」という評価で良いのだと思いますが、一方、課の方針として、生涯学習情報コーナーを中心に相談を行うスタイルから、相談に来にくい方々にはこちらから出向いて行って出張相談を行いたいと考え、アウトリーチという新たな展開をしています。それができて初めて「できている」という評価にしたいと思っていますので、現状は「どちらかといえばできている」とすることで、意図的に伸びしろの余白を残しています。

○大森会長 資料編のコーディネーターの部分はいかがですか。連絡会の構成を中心にした内容ですが。入稿前に、皆さんに、見ていただきましょう。

「おわりに」のところは、これでよろしいですか。意見がないようですので、これでいたします。

では、事務局よりお願いいたします。

(2) その他 事務連絡

○事務局（神田課長補佐） 次第のとおりですが、「今後の報告書発行及び提出までのスケジュール」についてです。市長への報告書の提出日が2候補あります。（6月28日に決定。）

事務連絡です。会議録概要ができましたら、配信させていただきます。ご確認ください。

最後に委員の皆さんには、2年間の任期でしたが、ありがとうございました。

○大森会長 皆様、2年間ありがとうございました。それでは、本日の会議は以上となります。ご協力ありがとうございました。

—— 了 ——